



rsh コマンドの実行方法

AdRem NetCrunch 11 参考資料

目次

1. RSH コマンドの実行の概要	1
2. バッチファイルの定義	1
2.1. ユーザーの指定	1
2.2. POSIX プロセスからの起動	2
2.3. NM2 有償版を利用する場合	2
3. NETCRUNCH の設定	2
3.1. WINDOWS エージェントレス監視の確認	2
3.2. アラートアクションの追加	2
3.3. NETCRUNCH ノードの IP アドレス	3

1. rsh コマンドの実行の概要

本資料では、AdRem NetCrunch11.0.5.5351 日本語版(以下 11)における Windows の rsh コマンドを実行する方法について記載します。他社製品のコマンドの利用方法は、製品のマニュアル等をご参照ください。なお、ご利用の NetCrunch のビルド番号が異なると、仕様の変更などにより、動作、設定などが異なる場合がございます。あらかじめご了承ください。

本文書では、イベントが発生した際に rsh コマンドを実行する方法として、バッチファイルを利用する場合について記載しております。アラートアクションにバッチファイルの実行を定義することで、NetCrunch から rsh コマンドの実行が実現できます。

なお、NetCrunch 搭載サーバーが Windows Server 2012 R2 以降では SUA は削除されております。下記の Web ページを併せてご参照ください。

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn303411.aspx>

補足となりますが、Windows Server 上にて rsh コマンドを実行できるソフトウェアを、有償にてご提供しております。ソフトウェアを利用することで、Windows Server 2012/R2 や Windows Server 2016 でも rsh コマンドの実行が可能となります。ご興味がありましたら、株式会社情報工房までお気軽にお問い合わせください。

http://www.johokobo.co.jp/nm2/nm2_index.html

2. バッチファイルの定義

バッチファイル内には、任意の rsh コマンドを定義します。rsh コマンドの定義に関する注意事項について、記載します。

2.1. ユーザーの指定

通常、コマンドプロンプトなどから rsh コマンドを実行する場合は、Windows にログインしたユーザーが付与されるため、コマンド上にユーザーを指定していない場合であってもコマンドが正常に実行される場合がございます。しかし、NetCrunch 関連のサービスは、デフォルトでは「ローカルシステムアカウント」として稼働しているため、コマンドにユーザーが付与されません。NetCrunch から rsh コマンドを実行する場合には、コマンド上でユーザーを指定する必要があります。

NetCrunch 搭載サーバーが Windows Server 2008 R2 の場合：

「-l」のほか、「-D」でユーザー名を指定します。

【例】

```
c:\windows\posix.exe /u /c /bin/rsh <IP アドレス> -Dl <ユーザー名> <コマンド>
```

※本マニュアル作成時点では、Windows Server 2008 の rsh に、ユーザー名が正常に引き渡されないという不具合がございます。その回避方法として、「-D」のオプションが利用できるとのことです。下記の Web ページをあわせてご参照ください。

<http://support.microsoft.com/kb/2360829/>

2.2. POSIX プロセスからの起動

NetCrunch 搭載サーバーが Windows Server 2008 R2 である場合、「2.1 ユーザーの指定」にある例のように、POSIX プロセスから起動するように設定する必要があります。rsh のパスを通して環境であっても、POSIX プロセスから起動するように定義をお願いいたします。

2.3. nm2 有償版を利用する場合

nm2 有償版は、Windows Server 上にて rsh コマンドを実行できるソフトウェアです。nm2 有償版を利用することで、SUA を利用できない Windows Server 2012/R2 や Windows Server 2016 であっても、rsh コマンドを実行することが可能です。

【例】

```
<nm2 のパス> RSH <IP アドレス> <ユーザー名> <コマンド>
```

3. NetCrunch の設定

NetCrunch 側の設定について、記載いたします。

3.1. Windows エージェントレス監視の確認

NetCrunch からバッチファイルを実行する場合、Windows 監視を行う必要があります。デフォルトインストールの場合、NetCrunch は自動的に自身のサーバーに対して Windows 監視を行っております。NetCrunch ノードを右クリック→[ステータス]の[サマリ]タブにて、[Windows Server]の項目が OK と表示されていることをご確認ください。

3.2. アラートアクションの追加

アラートアクションの追加手順について、以下に例示します。なお、以下の手順ではアラートスクリプトを設定し、イベントに対して適用しております。その他、イベントに対して直接アラートアクションを定義することも可能です。

アラートスクリプトの定義

1. NetCrunch メインメニュー→[監視]→[アラートスクリプト]を選択します。
2. [アラートスクリプト]ウィンドウにて、[追加]をクリックします。
3. [アラートスクリプトの編集]ウィンドウにて、スクリプト名を設定します。
4. [追加]→[すぐに実行されるアクション]または[遅延後に実行されるアクション]または[アラートクローズ時に実行するアクション]を選択します。
5. [アクションの追加]ウィンドウの[コントロール]タブにて、[Windows プログラムの実行]をダブルクリックします。
6. [アクションパラメータの編集]ウィンドウにて、以下の設定を行います。
プログラム実行ホスト: <NetCrunch ノード>
ファイル名: 用意したバッチファイルのパス
7. その他必要に応じて設定の上、[OK]をクリックします。

アラートスクリプトの適用

1. NetCrunch メインメニュー→[監視]→[監視パック&ポリシー]を選択します。
2. 対象のイベントが定義されている監視パックやマップ、ノードを開きます。
3. 新しく開いたウィンドウの[アラート&レポート]タブにて、対象のイベントを右クリック→[定義済みアラートスクリプトの適用]から対象のアラートスクリプトを選択し、[OK]をクリックします。

3.3.NetCrunch ノードの IP アドレス

NetCrunch では、NetCrunch ノードとなっている IP アドレスでバッチファイルを実行します。NetCrunch 搭載サーバーが複数のインターフェースを持つ場合、NetCrunch ノードの IP アドレスにご注意ください。rsh コマンドの実行先で IP アドレスでの制限がある場合、NetCrunch ノードの IP アドレスを許可する必要があります。

NetCrunch ノードの IP アドレスを変更する場合、NetCrunch のメインメニュー→[アトラス]→[プロパティ]の[監視]タブにて「NetCrunch ノードを変更する」をクリックしますと、新しいウィンドウが開きます。開いたウィンドウの[NetCrunch ノードアドレス]のプルダウンメニューより選択できます。